

受章おめでとうございます

秋の叙勲・褒章

危険業務従事者叙勲

警察や自衛隊など危険な職務に長年従事した人に贈られる危険業務従事者叙勲と、顕著な功績を挙げた人などに贈られる、秋の叙勲・褒章が発表されました。市内からは、10月13日に発

表された危険業務従事者叙勲に4人、11月2日発表された褒章に2人、3日発表された叙勲に6人がその荣誉に輝きました。受章者の皆さん、おめでとうございます。



平石 和一さん(76)
水沢区真城が丘三丁目

瑞宝単光章（警察功労）

昭和26年岩手県警入り。地域部門を中心に、住民の安全を第一に職務を全うしました。昭和30年ごろに、当時高級だった自転車の盗難事件が発生。「何日もかけて自転車を発見したとき、持ち主からの感謝の言葉が忘れられない」と振り返ります。



千葉 次夫さん(77)
水沢区山崎町

瑞宝単光章（警察功労）

昭和26年に岩手県警入りし、40年近い経歴の半分以上は交通部門を担当。45年に開催された岩手国体の交通規制計画に携わり、連日深夜の帰宅が続きました。交通事故多発の現状に「高齢者の再教育も必要」と今後も地域の安全に気を配ります。



菊池 幸さん(61)
江刺区藤里字日照田

瑞宝単光章（防衛功労）

昭和40年に陸上自衛隊入り。滝沢村の第9特科連隊で砲手などを務めた後、岩手地方連絡部一関出張所で自衛官募集業務を担当。景気が良い時期で企業への就職希望者が増える中、自衛官確保に昼夜奔走し、円滑な業務遂行に貢献しました。



花岡 史峰さん(65)
水沢区姉妹町字北白山

瑞宝単光章（消防功労）

昭和46年東京消防庁入り。府中消防署を皮切りに7署に勤務しました。臨港署時代には、日本航空機の羽田空港墜落事故に遭遇。第1陣として船で現場に到着し、救助に当たりました。昨年家族で帰郷し、地域の防災にも心を砕いています。



花山 雅夫さん(77)
水沢区佐倉河字西大畑

旭日小綬章（地方自治功労）

昭和54年水沢市議会議員に初当選後、7期連続26年余にわたって議員を務め、地方自治に貢献。初当選時から胆江広域圏での合併を公約に掲げ、最後は合併協議会委員も務めました。「奥州市の誕生は感無量」と相好を崩します。



石川 六郎さん(82)
水沢区字南町

旭日双光章（保健衛生功労）

叙勲の報に「共に活動していただいた先生方に代わって受ける思い」と石川さん。昭和61年から8年間、水沢医師会会長を務め、医療環境の向上に尽力。約40年前に自分が手術を受けた経験から、患者の立場に立った診療にも尽くしています。



鈴木 直さん(72)
江刺区八日町二丁目

瑞宝小綬章（教育功労）

昭和34年宮城県で高校教員に採用され、5年後交換人事で遠野高校へ赴任。県教育委員会などを経て、岩谷堂高校、一関第一高校の校長を歴任しました。岩谷堂高校校長時代には、県内初の総合学科開設に携わるなど、教育向上に尽力しました。



佐々木 金助さん(83)
江刺区愛宕字小畑

瑞宝双光章（消防功労）

戦前、消防団の前身である警防団に入団。火災現場はもちろん、予防にも数多く出勤しました。昭和50年から江刺市消防団副団長、55年からは同団長を務めました。婦人消防協力隊の結成を先導するなど、消防力強化に貢献しました。



柏木 柏さん(81)
江刺区六日町

瑞宝双光章（警察協力功労）

開業医の傍ら、昭和33年から検案業務（変死体の検視）を引き受けました。好んで引き受けた訳ではありませんでしたが、誰かがやらなければならないとの使命感から、約半世紀続けてきました。「男は死ぬまで仕事」と強い信念で取り組みます。



遠藤 寿一郎さん(78)
江刺区中町

瑞宝双光章（教育功労）

昭和24年に小学校教員となり水沢小学校、伊手小学校などに赴任。平成2年に愛宕小学校長で退職しました。特別支援教育に長く携わり、現場の声を取り入れて作り上げたカリキュラムは「胆江プラン」としてモデルになりました。



紺野 正明さん(63)
水沢区神明町一丁目

黄綬褒章（業務精勵）

昭和47年に冷暖房などの設備機器会社を設立。社員28人の会社で成長させた今でも、第一線で活躍しています。平成19年から岩手県管工業協会会長にも就任。休日や夜間に急に入る仕事も多く、対応する社員の家族への心配りも忘れません。



高橋 雄吉さん(64)
水沢区佐倉河字下谷地

藍綬褒章（更生保護功績）

保護司として、保護観察処分となった子どもたち100人以上を指導してきました。昭和56年から胆江地区保護司会事務局長、平成19年には同会長に就任。経験に基づき「犯罪に走る子の多くは家庭に問題がある」と家族の和の大切さを訴えます。

市の出来事から

国際姉妹都市と末永い交流を約束

本市から国際姉妹都市であるオーストラリアのグレイターシエパートン市への公式訪問は、10月7日から14日までの日程で行われました。同市とは旧江刺市が昭和54年に姉妹都市を結んでおり、合併後初の公式訪問となりました。訪問団には、相原正明市長夫妻、小沢昌記市議会議長夫妻、菅原義子教育長ほか、一般参加者を含め17人が参加しました。



計画書を交わす相原、フーラン両市長（胆江日日新聞社提供）

江刺の菊地さん満100歳を祝う

市は10月20日、同月満100歳を迎えた菊地セヨさん（江刺区岩谷堂字五位塚Ⅱに記念品を贈り、長寿を祝いました。菊地さんは早くに夫を亡くしましたが、農業をしながら4人の子どもを育て上げました。特技は山形大黒舞で、県下舞踊大会に出場した経歴の持ち主。今でも扇子を大事にしています。

この日は、親戚や地域の人たちが出席して祝賀会が行われ、相原正明市長が記念品を手渡しました。



玄孫からの花束を手にする菊地さん

訪問団はオーストラリアの行政機関を視察しながら、9日にシェパートン入り。ジェニー・フーラン市長自らメルボルン空港まで出迎えるなど、熱い歓迎を受けました。翌10日には、本市のシンボルである桜、もみじの記念植樹が行われた後、両市間の交流計画について協議しました。交流計画の主な内容は、①教育交流の推進②文化、芸術交流の検討③産業交流の検討④2011（平成23）年にはグレイターシエパートン市側が公式訪問団を派遣—となっています。率直な意見交換で合意した両市長は、交流計画書に署名し、末永い交流を誓い合いました。当面は中学生の相互派遣などについて、平成20年度からの実施に向けた協議を進めます。